

## 実践の POINT

自尊感情を高めるために

- みんなが考えを言える環境作り。
- 自分のことに置き換えて考えられる発問。

## 1 ねらい

父母、祖父母への敬愛の念を深め、家庭や家族を思い愛する道徳的心情を育てる。

## 2 主題設定の理由

### （1）ねらいや指導内容についての教師の考え方

人は多くの人に支えられ、成長していくと考えられるが、家族とはその人の成長の上で欠かすことのできない集団の源である。今日家庭を取り巻く状況も様々であり、その姿は一様でないがその家族を構成する成員相互の温かい信頼関係や愛情によって互いが深い絆で結ばれていることが大切であるということの自覚をもつことが、より充実した家庭生活を築くことにもつながる。しかし、かつてのような大家族の人間関係の中でしつけられ、喜怒哀楽を共にし、生活の苦勞を分かち合いながら、人間関係の機微を学んだり、家族の連帯を自覚したりする機会も少なくなっている。普段より祖父母とのかかわりが無い子どもにとっては、高齢者に対して、その見た目や行動のみで判断し、良いイメージを持てなかったり、思いやりの気持ちで接することができなくなっている。中学生の時期は自我意識が強くなり、自律への意欲も高くなっていく。そのため父母や祖父母に対して、ちょっとした忠告や叱責が、あたかも自分のすべてを否定されるかのように思えて、反抗したい気持ちになる。

この時期に、自分と家族とのかかわり、家庭生活の在り方が人間としての生き方の基礎であることに気付かせ、自分が家族の中でどのような立場で何ができるのかを考え、実践していく態度につなげるようにする。また、祖父母への思いが高齢者に対する思いにつながるよう深く、広い思いやりにも発展させていきたい。

### （2）児童生徒の実態と教師の願い

本学級の生徒は、男女の仲も良く、明るく元気で特に男子が活発である。小集団の中で育ってきており、体験や社会性に乏しく、人とのかかわりの中で自分を素直に表現できなかったり、人とのかかわりがうまくできない生徒もいたりする。道徳の授業では、発表する生徒がきまっており、意見がつながりにくく道徳的心情が深まる授業がなかなかできていないのが現状である。資料の読解が難しい生徒がいることと、本資料が長文のため、事前に読ませ、場面を確認しながら授業を進めていきたい。

家庭においては、祖父母が身近にいる生徒が少なく、中学校に入って反抗する気持ちも相まって家族に対し快く思っていない生徒やまた、そこまではなくとも日々の生活の中で家族の支えを当然かのように思っている生徒も少なくない。

主人公の心情の変化を考えながら、父母、祖父母に対して敬愛の念を深め、家族の一員として互いを思いやり、感謝の気持ちを持って家庭生活を送ろうとする心情を育てていきたい。

(3) 使用する資料の特質及び児童生徒の実態とかかわらせた指導の方策

本資料「一冊のノート」では、物忘れが激しくなり年老いていく祖母にいらだつ主人公が、自ら苦悩しながらも家族のことを思い続ける祖母の思いに触れ、感動し、祖母への思いを新たにすることが描かれている。この資料を通して、日常の生活を見直し、祖父母の思いを受け止め、家族の一員としての自らの役割などを考えさせたい。本時の学習では、主人公の祖母に対する心の変化をしっかりと考えさせることで道徳的価値の自覚を深めさせたい。また、終末に家族からの手紙を渡すことで自らの家族の思いにふれ、家族の一員としての自覚を促し、穏やかな気持ちで授業を締めくくりたい。

### 3 本時で期待する児童生徒の姿

〔授業前の児童生徒の考え方〕

- ・ 家族に言われたり、されたりするのはうっとうしい。
- ・ 家族に支えられるのは当たり前。



〔授業を通して高めたい児童生徒の考え方〕

- ・ 家族に対して思いやりや感謝の気持ちを持って家庭生活を送ろうとする。
- ・ かけがえのない家族の存在を改めて考え直し、家族の一員としての自覚が持てる。

## 4 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される発言や心の動き	指導上の留意点 支援の観点
導入	1. 自分の体験を振り返る。	○家族とけんかしたことはないか。どんなことでしたのかな。 ・勉強しなさいと言われた時けんかになった。	・全ての意見を受容し、和やかな雰囲気作りを心がける。
展開	2. 資料を読む 3. 主人公の祖母に対する気持ちを考える。  4. 家族のことを思い続ける祖母の心情を考える。  5. 主人公の心の声を聴く。	○主人公が祖母をよく思っていない心情円のブルーの部分ってどんな気持ちがあるだろうか。 ・物忘れがひどくて困ったものだ。 ・迷惑している。 ・何でもおばあちゃんが悪い。 ・うっとうしい。 ・恥ずかしい。 ・友達に自分の祖母だと思われたくない。 ・友達にバカにされそうだ。  ○主人公は「だけど・・・」のところで本当はなんと言いたかったのだろう。 ・僕たちが迷惑しているんだよ。 ・悪気がなくてもひどすぎるよ。 (補助発問)しかし「だけど・・・」の後、それ以上何も言えなかったのはなぜだろう。 ・言ってもしょうがない ・迷惑だけど寂しさもある複雑な気持ちから。  ○一冊のノートに書かれてあった祖母の「自分では一生懸命やっているつもりなのに……。」のあとはどんな言葉が書きたかったのだろう。 ・迷惑をかけるばかりで悪いよ。 ・体がいうことをきかないんだよ。 ・がんばりが足りないのかな。  ◎主人公はだまって祖母と並んで草取りを始めたときどんなことを考えていたのか。 ・これまでごめんね、おばあちゃん ・今まで世話を掛けたね、これからは自分のことは自分でするからね ・おばあちゃん今までありがとう、これからも元気でいてね ・おばあちゃんのことを大事にしよう。これからは僕が守るからね。	・主人公の気持ちがわかる場所に線を引かせながら範読を聞かせるようにする。 ・祖母に対する思いを心情円を使って表現させる。 ・心情円で表した生徒の思いを聞くことで主人公の気持ちにせまるようにする。 ・祖母を責め続けてきた主人公が父から話を聞くことで、祖母に対する気持ちの変化の現れもあるが、感謝の思いにはいたってないことに気づかせたい。 ・心情円を使って祖母に対する思いを表現させる。 ・苦悩しながらも家族のことを思い続ける祖母の心情、生き方を感じ取らせる。  ・主人公の心の変化を追及し、祖母が家族をどう思っていたのかをもう一度押さえることによって、「家族を大切にす」というねらいに迫る。  ・くどくならないようにする。
終末	6. 家族と自分のつながりを振り返る。	○家族とはなんだろう。授業で考えたことをもとに、ワークシートへまとめてみよう。	・事前に用意しておいた家庭からの手紙を読み、自らの家族に対する思いを考えさせる。

おばあちゃん

おばあちゃん

主人公（僕）

一冊のノート

一冊のノート

僕

「一冊のノートを読んで」

だまって

僕

父の話を聞いて

僕

おばあちゃんのことどう思っていたか？

僕

おばあちゃん長生きしてね。  
今までつらくあたたたりしてごめんね。

おばあちゃんいつも僕たちのためにありがとう。

僕たちが迷惑しているんだよ。悪気がなくてもひどすぎるよ。言ってもしょうがない。迷惑だけど寂しさもある複雑な気持ちから。

僕

物忘れがひどくてこまったものだ。  
何でもおばあちゃんが悪い。  
迷惑だ。  
うっとうしい。

父の話を聞いて